

編 集 後 記

本号では、食道粘膜下層癌の臨床病理学的検討と治療方針、膵癌の術後再発機序に関する臨床病理学的および分子生物学的検討、非閉塞性腸管梗塞症の臨床病理学的検討、大腸多発癌の臨床的検討の4編の原著と12編の症例報告および臨床経験として、上腸管膜動脈閉塞症に対する右胃大網動脈を有茎グラフトバイパス術について掲載することになりました。いずれの論文も興味深いものばかりで日常の消化器外科の臨床に役立つものと確信しております。

編集委員会では出来る限り丁寧な査読をして質の高い学会誌とすべく努力をしております。投稿された先生方はよく理解されていると思いますが、各論文について3人のその領域を専門とする編集委員が細かい点まで十分に検討し合って、場合によっては何回も著者との往復をして仕上げられた論文が形となって表れたものでありまして、著者自身は勿論のことではありますが、我々19人の編集委員、2人の編集幹事それに多大な努力をして頂いております事務局の全員の喜びでもあります。

編集委員会では、上部消化管・下部消化管・肝胆膵・総論の4つの分野にそれぞれの専門分野の編集委員が分れて査読に当り、専門分野からはずれた論文が投稿された場合には、消化器外科学会の評議員の中で、その分野を専門にされている先生に査読に参加して頂くシステムになっておりますので、極めて投稿者の立場に立っての査読がなされておりますことをお知らせしたいと存じます。

折りしも世界では9月11日のニューヨークでのあまりにも悲しいテロ事件後、各分野で極めて鮮明な意識改革が迫られておりますが、どっぴりと浸りきった日常から「発想の転換」を日常にとり込む中で、常に前進する消化器外科を目指すことを誓って編集後記とさせていただきます。

(山岸久一)